

第15回 広島湾研究集会

－ 海域の貧栄養化～広島から瀬戸内海について考える －

共 催：水産海洋学会，広島県立総合技術研究所水産海洋技術センター，広島大学大学院生物圏科学研究科・流域圏環境再生プロジェクト研究センター，(独)水産総合研究センター瀬戸内海区水産研究所，(独)産業技術総合研究所地質情報

日 時：2014年12月19日(金) 10:00～16:45

場 所：広島県情報プラザ 多目的ホール(広島市中区千田町3丁目7-47)

コンビナー：相田 聡(広島総研水海技セ)，山本民次(広大院生物圏科学)，小畑泰弘(瀬戸内水研)，高橋 暁(産総研地質情報)

挨拶：和田時夫(水産海洋学会長) 10:00～10:05

趣旨説明：相田 聡(広島総研水海技セ) 10:05～10:10

座 長：高橋 暁(産総研地質情報)

基調講演

瀬戸内海の貧栄養化と生態系構造の変化をどう見るか 10:10～11:10

山本民次(広大院生物圏科学)

話 題 ～ 瀬戸内海におけるノリ養殖等のための栄養塩管理 ～

1. 東部瀬戸内海に流入する河川栄養塩濃度の時系列解析と負荷量変化の評価 11:10～11:30

駒井幸雄(大阪工大)

2. 海底からの栄養塩溶出量 11:30～11:50

多田邦尚(香川大農)

座 長：小畑泰弘(瀬戸内水研)

3. 瀬戸内海の窒素・リンの動態について ～大阪湾を中心として～ 13:00～13:20

中嶋昌紀・山本圭吾・佐野雅基・秋山諭(大阪環農水研)

4. 窒素欠乏と添加による養殖ノリ葉状体の生理的応答 13:20～13:40

二羽恭介・原田和弘(兵庫水技セ)

5. 栄養塩濃度とノリ色調および単価との関係 13:40～14:00

村山史康・高木秀蔵(岡山水研)・清水泰子(岡山県庁)

6. ワカメの色落ちのメカニズムと対策 14:00～14:20

牧野賢治(徳島水総セ)・中西達也・加藤慎治(徳島県庁)

座 長：相田 聡(広島総研水海技セ)

7. 下水処理調整運転による栄養塩管理 14:20～14:40

宮川昌志・龍満直起・赤井紀子・益井敏光(香川水試)・末永慶寛・石塚正秀(香川大農)

8. 安定同位体比を用いたノリ漁場への窒素供給源の推定 15:00～15:20

小林志保(京大フィールド研)・藤原建紀(京大名誉教授)

9. 東部瀬戸内海における栄養塩の動態とノリ養殖等のための栄養塩管理 15:20～15:40

阿保勝之・中川倫寿・阿部和雄(瀬戸内水研)・樽谷賢治(西海水研)

総合討論 座 長：山本民次(広大院生物圏科学) 15:40～16:45

開催趣旨：近年、瀬戸内海では栄養塩濃度が減少傾向にあり(貧栄養化)、養殖ノリの色落ち被害などの問題が発生している。これまでの水質総量規制により一定の水質改善がみられた一方で、貧栄養化によるノリ養殖への悪影響や生態系全体の生産力低下が指摘されるようになってきており、今後の瀬戸内海のあり方について議論すべき時機に来ていると思われる。本研究集会では、基調講演により瀬戸内海における貧栄養化の現状とメカニズムについて理解を深める。続いて、ノリに代表される藻類養殖対策としての栄養塩管理に関する研究事例を通じて、今後の瀬戸内海の水産振興について考える。まず、海域における窒素・リンの動態や負荷量を把握し、ノリ葉状体の生理応答など藻類養殖における色落ちメカニズムを理解する。さらに、下水処理調整運転などノリ色落ち対策への取り組み紹介やノリ等の藻類養殖のための栄養塩管理についての議論を通じて、今後の方向性を模索する。